

平成28年度 保護林拡充調査の概要 (弦場山国有林)

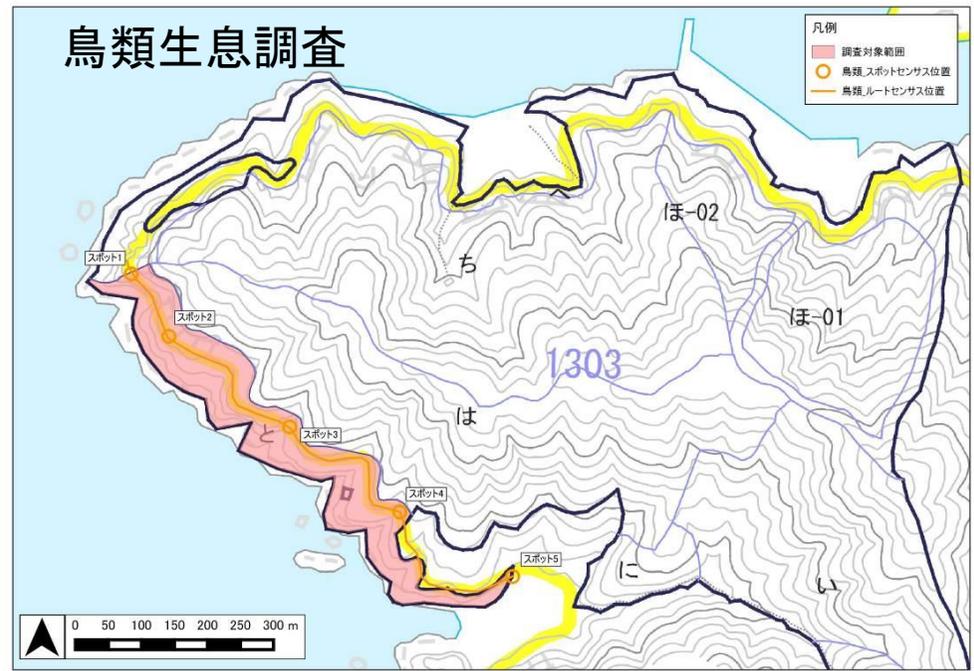
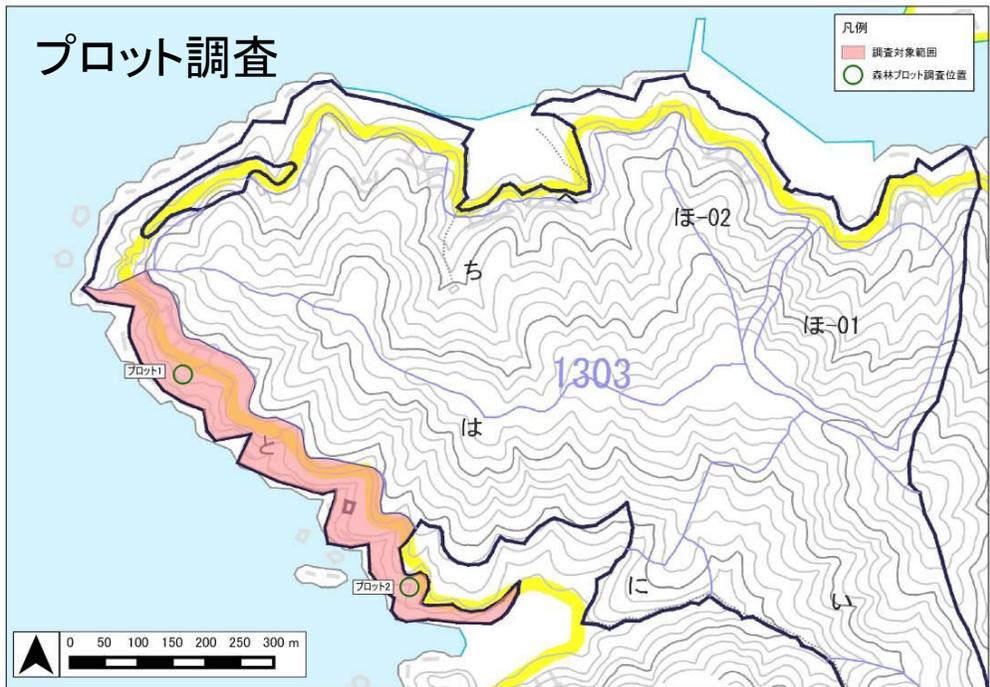
対象樹種：ウバメガシ

調査機関：有限会社エー環境研究所

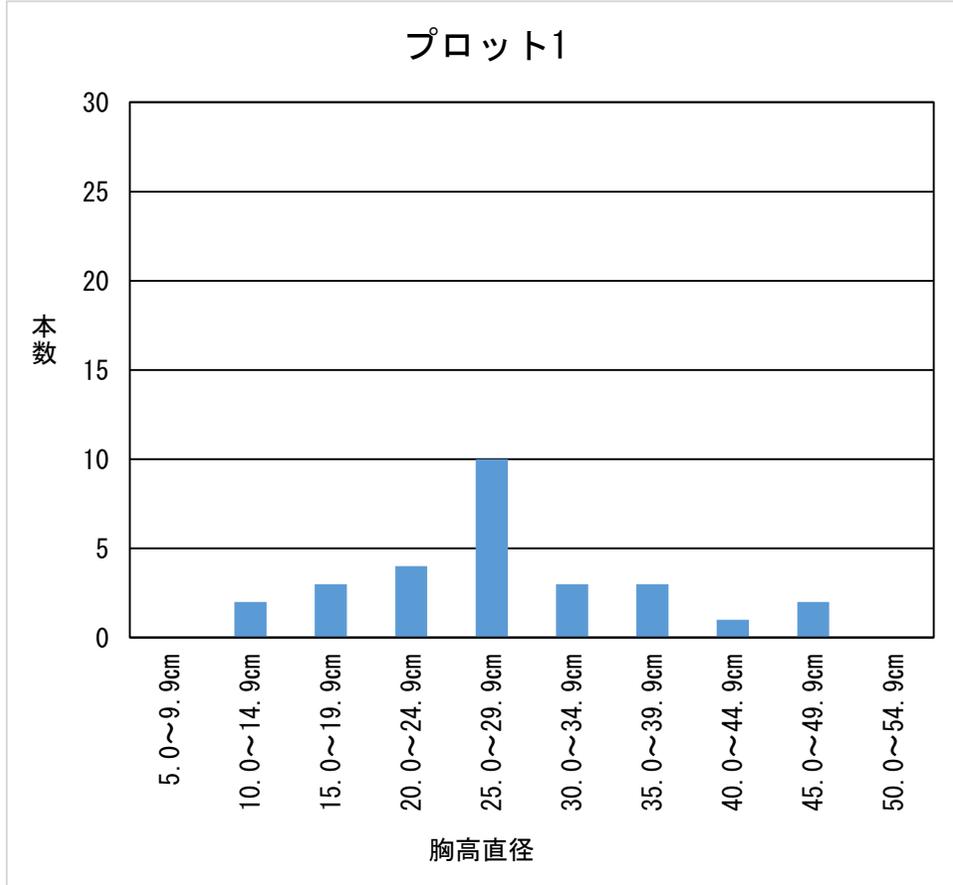
保護林拡充予定箇所

弦場山ウバメガシ
林木遺伝資源保存林

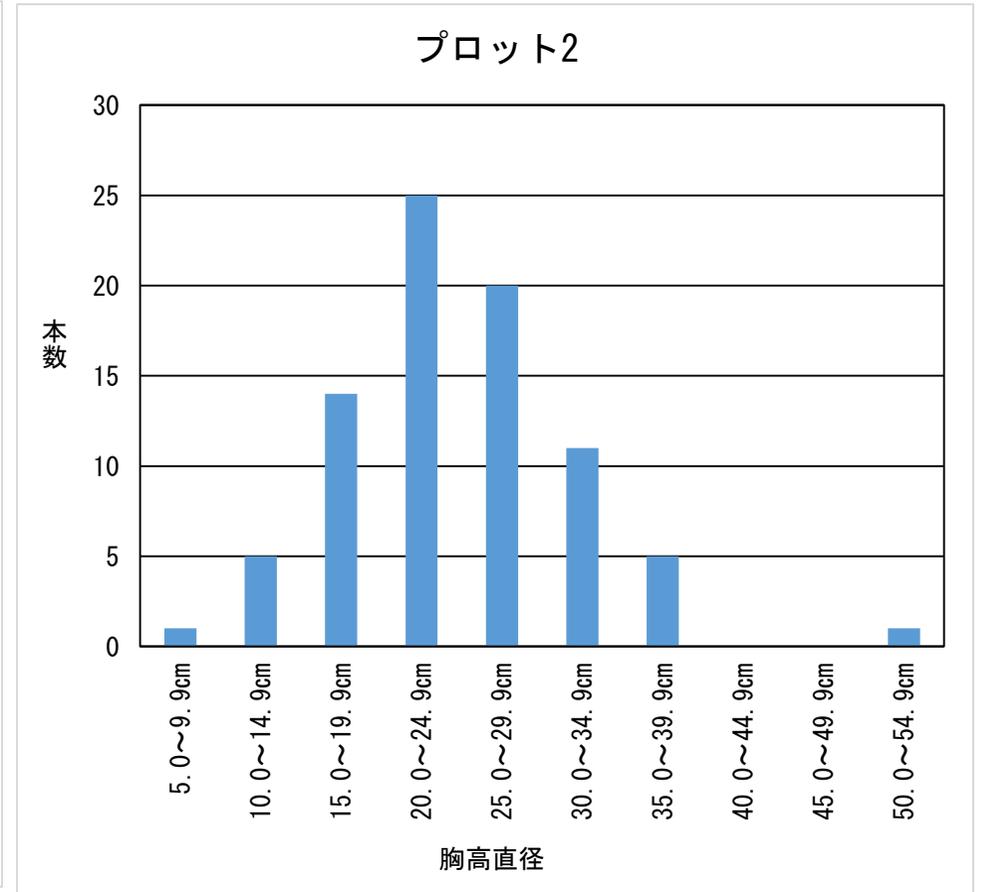
平成28年度 保護林拡充調査 調査箇所位置図



ウバメガシの胸高直径



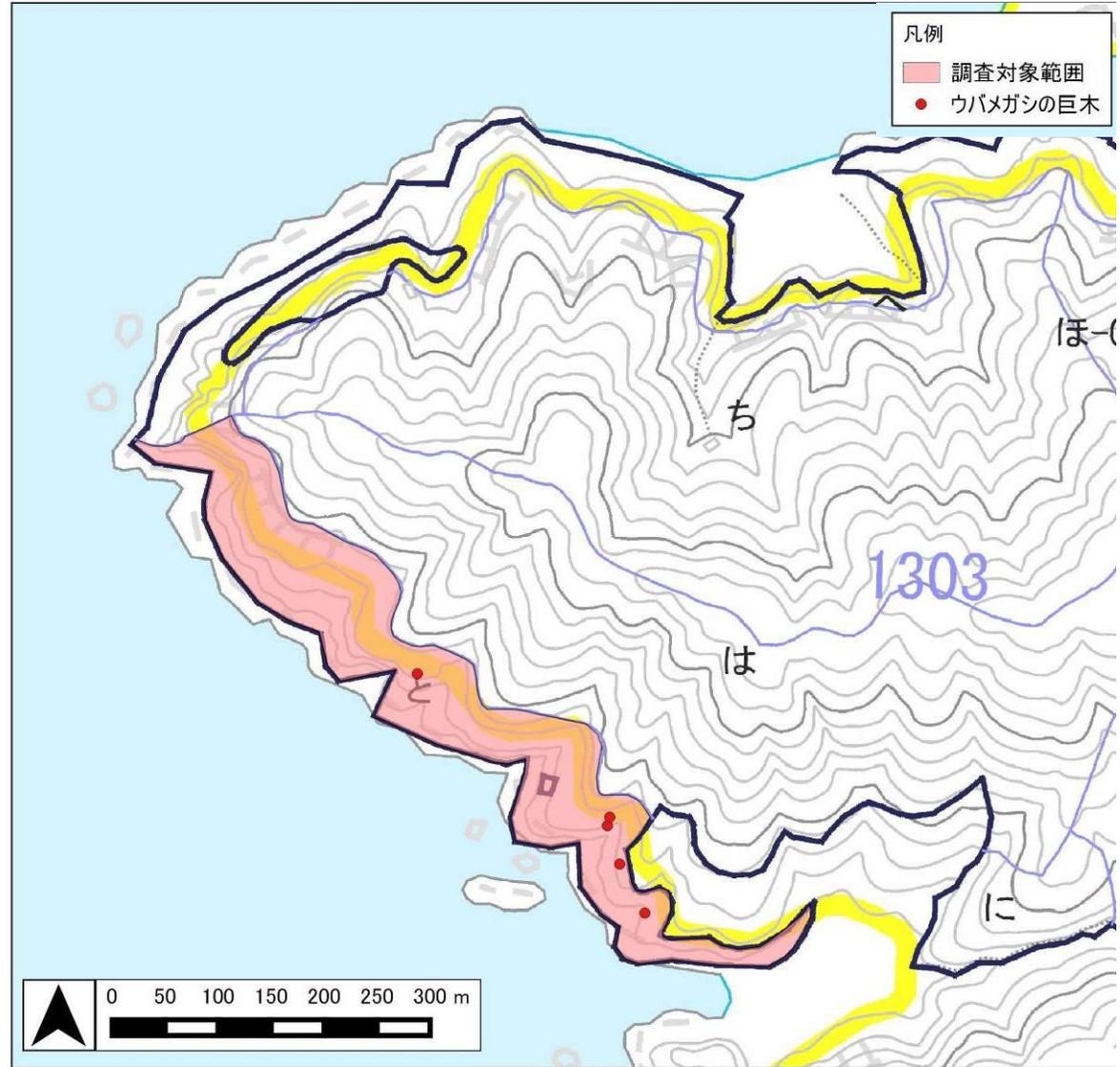
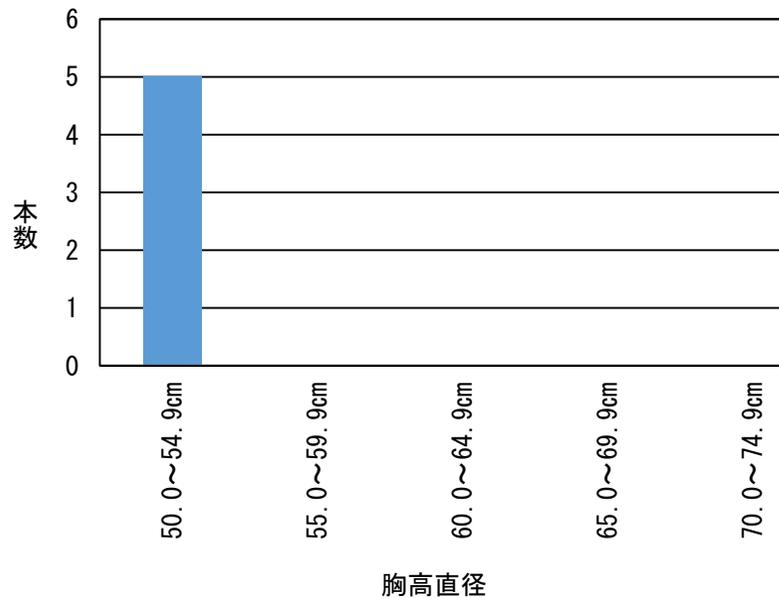
10科11種(98本) ウバメガシ28本
高木層の植皮率95% ウバメガシが優占



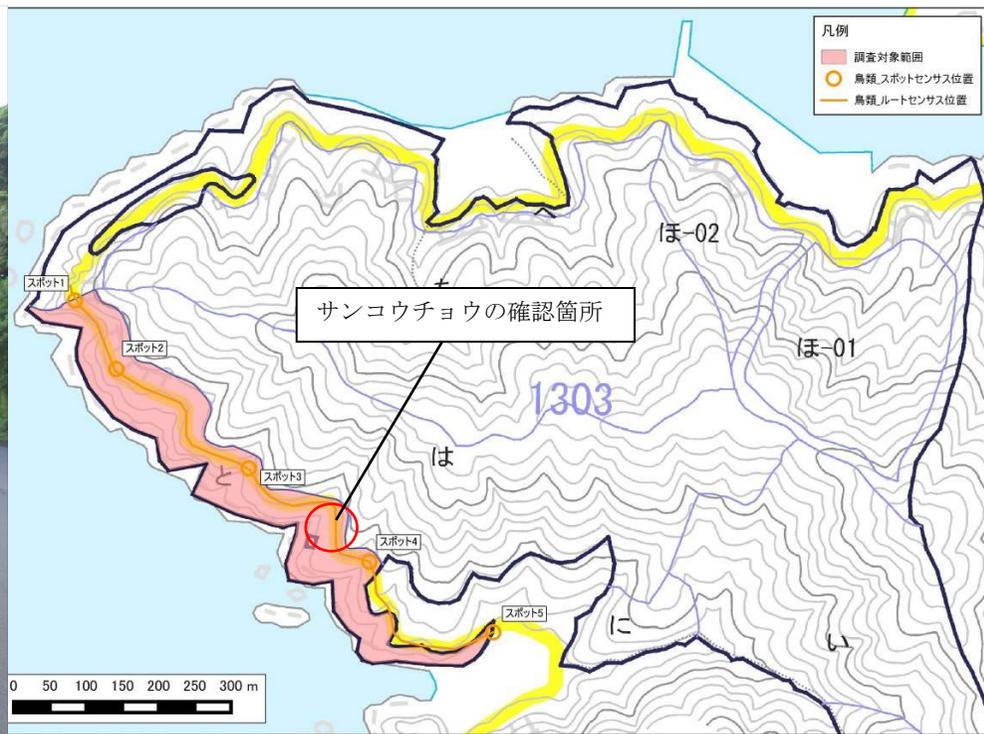
10科10種(118本) ウバメガシ82本
高木層の植皮率95% ウバメガシが優占

巨木調査

項目	サイズ	値
胸高直径 (cm)	最大	53.7
	最小	50
	平均	51.94
樹高 (m)	最大	14
	最小	12.5
	平均	13.3



希少種 サンコウチョウ 確認環境 (希少種は1種)



高知県レッドリスト
準絶滅危惧(NT)

確認された鳥類: 17科19種

確認された哺乳類: 5科6種
(希少種の確認はなかった)



タヌキ



ハクビシン



イタチ属



ニホンアナグマ

考 察

〈植生及びウバメガシの生育状況〉

典型的なトベラーウバメガシ群落

ウバメガシに病虫害獣(カシノナガキクイムシやシカ等)の影響を受けた個体はない。

〈哺乳類の生息状況〉

調査の際に留意したニホンジカは確認できなかった。

〈鳥類の生息状況〉

11種のいずれも囀りが確認された。

ヤマガラは巣立ちの雛を確認、他の樹林性の鳥類も周辺での繁殖が考えられる。

既存の保護林(弦場山ウバメガシ林木遺伝資源林)と林内の構成種やウバメガシの個体サイズが類似している。

ナラ枯れやニホンジカの被害に注意していく必要がある。

既存の保護林は面積(1.47ha)が狭く、被害を受けた場合の保護林の機能維持が困難。調査箇所(拡充検討箇所)は面積が4.25haあり、保護林の機能低下のリスクを分散させることが可能となる。